

【お知らせ】ホームページのでも閲覧できます。「企業情報」からご覧ください。

## 最近の話題

### 2022 年度 調剤報酬改訂の動向

2022 年度の調剤報酬改定に向けた議論が、中央社会保険医療協議会(中医協)と財務大臣諮問機関の財政制度等審議会財政制度分科会において議論されており、保険薬局関係の主な検討項目は以下の通りです。

#### <中央社会保険医療協議会(中医協)>

##### ●薬剤服用歴管理指導料の引き上げ

薬剤師会が薬剤種類数の多い患者では、説明指導や薬歴記載に多くの時間を要するため、そのような場合での報酬引き上げを要求。しかし、他の委員からの反対が強く、可能性が低い。

##### ●かかりつけ薬剤師指導料の算定患者に対してかかりつけ薬剤師以外が対応した場合の評価について

##### ●服用薬剤調整支援料について、支援料2を算定している場合で薬局の提案によって、実際に2種類以上の減薬が行われた場合であっても支援料1が算定できないことの算定要件の改善について。

#### <財政制度等審議会財政制度分科会(財務省)>

##### ●調剤報酬は薬学管理など価値あるサービスを提供する薬局・薬剤師を評価する方向にシフトすべき。

##### ●薬局の収益構造が依然として調剤基本料や調剤料に依存しているため、対物業務から対人業務への構造転換を後押しする調剤報酬改定にすべき。

##### ●地域支援体制加算の実績要件が地域連携薬局の制度面での対応との整合性が明確でない。

##### ●制度化された地域連携薬局に対して調剤報酬上の評価を行うべき。

<ポイント>調剤基本料と調剤料等の対物業務の報酬減額、薬学管理料などの対人業務報酬の増額があるかもしれない。また、地域連携薬局に対する調剤報酬新設の動向も注目される。対人的業務を今以上に行うための業務内容の見直しやフォローアップ業務を行い服薬情報等提供料2の算定につなげるなどを考えるべきだと思います。認定取得に向けた取り組みも必要だと思います。来年度の大きな課題と考えます。

### 薬剤師業務を取り巻く環境の ICT 化

昨今は SNS 等の情報通信技術(ICT)の進歩が凄まじく、国は地域包括ケアの確立に向けた医療の ICT 化を進めています。その第一弾は、本年 10 月にマイナンバーカードを健康保険証として利用し、薬剤情報、診察や検査結果などの特定健診情報を閲覧できるオンライン資格確認の本格運用であり、さらにこれを基盤として、23 年 1 月には電子処方箋の導入が予定されております<sup>1)</sup>。これと関連して、これまでの調剤済み処方箋の処理は調剤済印を押印することで完結していましたが、電子処方箋の場合は印鑑に代わって HPKI 証明書<sup>2)</sup>による電子署名という方法がとられるとのことです。この証明書を IC チップに内包した薬剤師資格証(図)は、すでに日本薬剤師会認定局から入手可能ですが、その認知度が低いため現時点で所持している薬剤師は少数とのことです。しかし、近い将来には薬剤師としての押印を必要とする業務に携わる薬剤師がこの資格証を所持することになると思います。また、オンライン服薬指導については、「薬剤師の判断で初回から」「対面診療の処方箋」でも実施可能なルールの見直しが行われています。

研修認定薬剤師の受講単位申請等の手続きも薬剤師研修・認定電子システム(PECS)として ICT 化され、22 年 4 月から全面稼働することになっています。

従って、オンライン服薬指導や電子処方箋の対応など、薬剤師が患者に情報提供する上で ICT への対応が喫緊の課題となっており、今後は薬剤師の資質向上に向けた研修の実施が盛んになると考えられます。

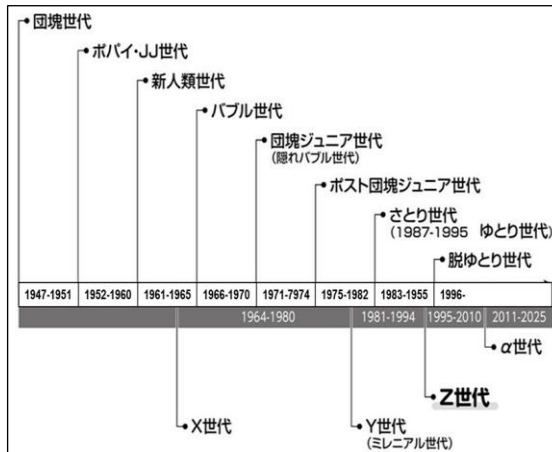
1) 伊藤健：電子処方箋の運用開始に向けて、薬事日報、第 12486 号、2021

2) HPKI :  
Healthcare Public  
Key Infrastructure



### 爺薬剤師のぼやき：「Z 世代って・・・？」

つい最近の他社との Web 会議で、相手方の若い社員から「Z 世代」という今まで聞いたことのない単語が発せられ、右の図の「ポパイ・J 世代」に当たる爺薬剤師にとって、その言葉が気に入り、その後の会議の集中度が下がってしまいました。日本語表記の世代名はなじみ深いのですが、アルファベット表記の X、Y、Z の世代と α 世代という単語は私の中には存在せず、調べたところ、米国で使われている世代名とのことです。特に、Z 世代は今の 10 代から 26 歳に当り、SNS 等の ICT を使いこなすがリスクは負いたくない安全・安心・安定志向である一方、人の役に立ちたい等の社会的貢献度が高い世代であると言われています。薬局にも旧世代とは異なる価値観を持った世代が入り込み始めていますので、この世代との付き合い方が、ICT 化が進む今後の薬局運営に影響するかもしれません。ICT に弱い、おじさん、おばさん世代の薬剤師にとっては心強い存在になるかもしれません。



【出所】原田曜平著：Z 世代 若者はなぜインスタ・TikTok にハマるのか？